

優秀賞

やさしさが伝わる親切

千葉県 鎌ヶ谷小学校 四年

島崎 陽悠

暑い暑い夏休み。ぼくは、おじいちゃんの家にとまりに行きました。ぼくには2才年下の弟がいます。ぼくたちは、どうしてもすぐにけんかをしてしまいます。いつものように弟が、ぼくのことをよびすてにしたときに、おばあちゃんが言いました。

「お兄ちゃんのことをよびすてにするのは、おばあちゃんいやな気持ちになるから、やめようね。」

ぼくは、弟からよびすてにされてもなんとも思っていませんでした。「お兄ちゃん」とよばれることの方がいやでした。でも、おじいちゃんやおばあちゃんをいやな気持ちにさせてしまうのは、よくないと思いました。だから、お母さんと弟と話し合っ、て、ぼくは弟に「くん」付けでよんでもらうようお願いしました。お母さんは、

「あなたたちがすぐにけんかをしたり、言葉づかいが悪くなるのは、相手を大事にする気持ちが足りないからだよ。家族だからといって、あまえてきずつけてはいけないよ。」

と言いました。

ぼくは、年上だから自分の方がえらいと思う気持ちになっていたのかもしれない。だから、ぼくも弟をそんちょうするために、弟へのよびすてをやめて、「くん」付けでよぶことにしました。まずは名前のよび方から、ぼくたちは改めることにしたのです。

はじめは、「くん」付けでよび合うのは、はずかしい気持ちもあったし、ついよびすてでよんでしまうこともありました。でも、家族で注意し合いながら、だんだんとおたがいなれてきたように思います。ぼくは、意しきが変わったことで、少しだけ弟にやさしくなりました。

弟とけんかになりそうなときでも、やさしい気持ちで名前をよぼうとすると、おこる前に少し落ち着いて考えられるようになりました。弟がぼくの名前をやさしくよんでくれると、^{なまいき}生意気だと思ふことが減って、心が温かくなりました。あばあちゃんは、このことを知って、とてもよろこんでくれましたし、ほめてもくれました。ぼくは、ほこらしい気持ちになりました。

ぼくは今、小学校の友達を親しみを持って、よびすてでよんでいます。みんな仲良しです。でも、もしかしたら、よびすてにされていやだと思っている人がいるかもしれない。それを聞いた人や、見た人がよく思わないかもしれない。ぼくがえらそうな態度で名前をよんでいたことがあったかもしれない。本当はちがうよび方でよばれたいかもしれない。弟との関係を通じて、そんなことを想ぞうするようになりました。

すぐにはむずかしいかもしれないけれど、ぼくは、少しずつよびすてをやめていこうと思いました。そうしたら、よびすてにするよりも、もっとやさしい気持ちが伝わるかもしれないし、やさしい気持ちが返ってくると思うのです。それが、ぼくが考える「小さな親切」であり、大きな第一歩です。